



発行日：平成 28 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 31 回山部会WGを開催しました！

12月21日(月曜日)に第31回山部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 12 月 21 日 (月) 13 時 00 分～16 時 00 分  
場所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室  
参加者：18 名 (事務局含む)



### ◆主な会議内容

#### 1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、山村再生担い手づくり事例集は、取材が概ね終了し、とりまとめに移行しています(資料1)。今日は取材を終えての感想、意見などを班ごとにお願ひします。なお、1月6日(水)に事例集の中間報告会を行います。取材先に確認を行っていない状況でも全員で読み合わせを行います。矢作川研究所にお集まりください。それ以降は、1月中旬に完成版を提出、年度末にかけて校正を行ってまいります。



#### 2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングの進捗状況は、前回のワーキングから大きな変化はありませんが、山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドラインで様々な人間関係が構築されてきました。この人と人のつながりを、新たなイベントの創出につなげることはできないかと考えています。引き続き、良い意見があれば募集しますので、よろしくお願ひします。



#### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供を行います。皆様のご意見をお願ひします。

- ①矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林の紹介(別添資料)
- ②矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・並木のマップ(資料2)
- ③市民発!まちづくりシン展事業(半農半林)の紹介(別添資料)
- ④森林整備講演会・シンポジウム「緑の宝物 岡崎市の森林」の事後報告(回覧)
- ⑤第1回あさひ森の健康診断(初の地域主催)の事後報告



#### 4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆様のご意見とご感想をお願ひします。

- ①流域ものさし(どのような木を用いて、どのように製作するか)
- ②あそべるとよた DAYS のその後(プレイスメイキングの効果と展開)
- ③次世代を担う子供たちとその親に向けて
- ④林業立村シンポジウム(於：十津川村)の事後報告



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- ・ 天下杉という演芸団体の取材を担当したが、6 時間を超える取材および学ランを着て自ら出演するといった状況は、初めての体験であった。重要なキーワードとして、担い手が若者である必要はなく、年齢を重ねても自ら行動することが大切だということ学んだ。(近藤)
- ・ 今年度で予定していた 3 冊の事例集が完成するが、来年度以降は取材者と取材先が集まれるようなミーティングイベントをしたいと考えている。事例集に書けなかったことや後日談がきっとあると思う。(洲崎)
  - ▶ 面白い。今回の取材先である天下杉は、過去に取材した「ねば杉っ子餅」や「きくの会」との関わりが深く、メンバーもオーバーラップしている。流域(山村)文化祭という考え方だけでなく、木づかいとの関わりを目指すことも可能であると考え。(近藤)
- ・ 老人福祉センターぬくもりの里は、福祉施設というより建物全体が美術館のようなギャラリーになっていた。福祉は受けるだけではなく、入所者が持っているパワーを引き出す場所だと感じた。(沖)
  - ▶ 今回は文化的な活動団体が加わったため、取材の経験者も新たな経験をしているようだ。(洲崎)

### ●山村ミーティングについて

- ・ 今後とも流域の人々が何かの形で交われるイベントを模索したいと思う。(丹羽)
  - ▶ 山村再生担い手づくり事例集で培った人間関係を活用したイベント、先ほど提案された流域(山村)文化祭と協働してみてもどうか。(蔵治・洲崎)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林＞

- ・ 段戸裏谷原生林は、北設楽郡設楽町の標高 1000m前後に分布する県内では数少ないブナクラス域の天然林である。多くの巨木も残存する自然度の高い場所であるため、矢作川流域圏の特徴的な森林に推薦した。(洲崎)

＜矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・マップ＞

- ・ 前回の WG と比較してだいぶ増えてきた。推薦したい場所はまだまだあると思うので、名称と緯度経度をお知らせいただきたい。(蔵治)

＜市民発!まちづくりシン展事業(半農半林)の紹介＞

- ・ この事業の補助金というのは、矢作川水源基金によるものか、豊田市によるものか。(蔵治)
  - ▶ 矢作川水源基金によるものである。(洲崎)
- ・ 実に様々な団体が、街と田舎をつないでいる。ご紹介の事業は、部会員の山本さんが代表を務めている。(蔵治)

＜森林整備講演会・シンポジウム-緑の宝物 岡崎市の森林-の事後報告＞

- ・ 12月6日に行われたシンポジウムの参加者は107名で会場のぬかた会館は満席であった。おそらく、山の人だけでなく街の人も多かったと思われる。(蔵治)
- ・ 岡崎市林務課の姿勢が積極的になられたと感じ、嬉しく思った。(沖)
- ・ 岡崎市林務課に成功させようという強い意志が感じられた。(丹羽)

＜第1回あさひ森の健康診断(初の地域主催)＞

- ・ 出席者は60名を超え、最上川(山形県)の森の健康診断の主催者も訪れた。出席者のほとんどが発言し、地域の未来を真剣に考えた。旭地区ならではのアットホームな熱い報告会であった。(丹羽)

### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- ・ 山村再生担い手づくり事例集では、木づかいと関わりを持つとの意見が出たが、木材加工を生業としている団体との繋がりを持たないか。(丹羽)
  - ▶ 連携する天竜川との関係から、ベースの製作では統一を図るため難しいが、その後のオリジナルの製作では是非流域圏の人々に声をかけたいと考えている。(今村)

＜あそべるとよた DAYS のその後＞

- ・ 県の森林環境税(県内の団体のみ有効)を財源とするようアピールおよびパッケージ化してはどうか。(蔵治)
  - ▶ 事例集を活用して、愛知県内の団体との繋がりを模索したい。(今村)

＜次世代を担う子供たちとその親に向けて＞

- ・ 今後開通する新東名の岡崎市内のサービスエリア(自然を題材にしている)に木づかいを売り込んでどうか。(高橋)

＜林業立村シンポジウム(於:十津川村)の事後報告＞

- ・ 豊田市や木の駅プロジェクトの内容も含まれ、この地域の取組みが先進事例として認められている。(蔵治)

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

